

南町一丁目だより

発行日 平成19年12月15日
発行者 南町一丁目自治会
編集者 広報編集委員会
電話 221-2728(谷中)

第8号

自治会長挨拶

去る10月13日(土)14日(日)の両日に亘り、南町一丁目祭りを皆様の協力を頂いて、盛大に開催することができ、厚く御礼申し上げます。

例年と異なり、スケジュールの一部変更によって、役員や子供達に戸惑いもありましたが、事故もなく無事終了することができ、重ねて御礼申し上げます。

さて、11月末日をもって、民生児童委員の任期満了により斎藤洋子様が退任され、後任に堀口裕子様が就任いたしましたので、御伝えいたします。前任者は、長年に亘り自治会活動にご協力を頂き、有難うございました。後任者も前任者同様にお願い致します。

また、これから自治会行事として、「暮らしやすい町づくりのためのサポート事業」等、いろいろ計画しておりますので、皆様の積極的な参加御協力を御願い致します。

(自治会長 田島 健司)

今後の町内行事計画(平成19年12月~20年3月)

	行事等	関係団体
12月	南一いきいきサロン(10日) 廃品回収(16日) 餅つき大会(16日) 高齢者教室(生け花講習)(28日) 上毛かるた練習(18~20日)	民生委員、保健推進委員、長寿会 育成会 成年会、長寿会、育成会 生涯学習委員 育成会
1月	南一いきいきサロン(10日) 上毛かるた練習(7~18日) 桃井地区上毛かるた大会(20日)	民生委員、保健推進委員、長寿会 育成会 育成会、体育協会
2月	南一いきいきサロン(10日) 廃品回収(17日) 高齢者教室(味噌造り)(日)	民生委員、保健推進委員、長寿会 育成会 生涯学習委員
3月	南一いきいきサロン(10日) 町内グラウンドゴルフ大会(日) 桃井地区グラウンドゴルフ大会(23日) 長寿会日帰り研修視察(日)	民生委員、保健推進委員、長寿会 体育協会、南一グラウンドゴルフクラブ、成年会 体育協会、南一グラウンドゴルフクラブ、育成会 長寿会

<自治会からのお知らせ>

暮らしやすい町をみんなの力で

サポート事業、H20年1月よりスタート

一人ひとりが安心して住みなれた町で生活できるよう、地域の人々がお互いに支え合い、助け合おうという趣旨のもとにこの事業がスタートします。

- ・どんな人がこの制度を受けられるのか

町内在住者で、高齢もしくは身体が不自由な方で近隣に親族がいないため、日常生活上不自由していることに対し、皆様の要望に基づき支援いたします。

- ・どのような支援をしてくれるのか

1. 廃品回収の手伝い

足や腰が痛く、廃品回収日に新聞等を道路まで出すことが出来ない人に対しては、担当者が家の中まで回収に伺います。

2. 家庭内における高所作業および重量物の移動等の作業

①蛍光管の取り替え、②冷房器具と暖房器具の入れ替え、③タンスや重量物の移動、
④その他

3. 庭の枝切り

道路や隣家に出てしまった枝切り等（専門の剪定技術を要しない作業）

4. その他

1～3はひとつの例ですが、困っていることがあつたら相談をしてください。役員会で検討をして出来るものはお手伝いいたします。

- ・希望する場合、誰に連絡するのか

地域の組長（自治会）または自治会役員（民生児童委員・保健推進委員）まで、連絡してください。

- ・誰が支援してくれるのか

町内のボランティアがお手伝いに伺います。必ず胸に名札を付けて行きますので確認してください。（廃品回収時を除く）※名札には「支援サポート事業推進委員」および「氏名」が記入しております。

- ・作業をしてもらったお礼はどうするのか

地域の助け合い事業ですから、お礼は一切不要です。

後日、改めて「回覧板」にてご案内いたします。

(自治会副会長 根岸 貞夫)

<特集> 南町一丁目祭り

お祭りのある風景

遠くからかすかに聞こえるお囃子の音色。お祭り広場が活気付く。郷愁溢れるその旋律。夜を彩る提灯の明かり。そして「おかえりなさい」拍手で迎える。

私はこの光景が大好きです。ところが、今年は「いってきます・ただいま」側。お囃子に背中を押され、歩けや歩け。先頭を歩く恥ずかしさと南町一丁目を背負う緊張感。「最初で最後のお務めならば」ともう開き直って歩くしかありません。

二日目の夜、山車が広場に引き入れられて、お祭りもフィナーレです。見上げれば、そこには6年生の我が息子、恥ずかしがりやであるはずの子が、思いのほかしっかりと前を向き、堂々と太鼓を叩いていました。

13年前の秋、長女が小学校に入って初めてのお祭り。先輩小学生たちの素晴らしいお囃子に感動する私。その時お腹に入っていたのがこの子なのです。この子が6年生になる時代・・・恐ろしいほど先のこと、未来の彼方を感じていたものです。ところが、その「未来」は案外すぐに訪れ、息子は知らぬ間に私の背を越しました。

同じように見える毎日。それでも時代は確実に流れています。お祭り広場の場所も変わりました。育成会会員も完全に入れ替わり、多様化する世の中、会員数も減少。お祭りも、昨今は育成会が担当する模擬店の人手不足が深刻な問題となっています。そんな折、今年度は自治会役員の皆様に無理を言って人手のない時間帯のお手伝いをしていただき、育成会一同感謝しております。また、太鼓指導者の方々による手厚いご指導（＝忍耐力）のおかげで、普段はゲームばかりやっているイマドキの子どもたちから「もっと太鼓叩きたかった」との、こちらにとっては嬉しい不平を聞くことができました。

今回、子どもたちが少しでも「何かを考えて・意識して・感じて」今やっていることに取り組んでくれるよう、太鼓練習出席カードという、いわゆる「がんばりカード」のようなものを作りました。単に大人から与えられたことや言われたことをする、そういう行事で終わってしまう育成会では「子どもたちがもったいない」と思うからです。自分自身の「めあて」を記したカードには1週間ごとに感想を書く欄も設けました。初めて太鼓を叩いた子が「だいたい覚えた」「かんぺきに覚えた」「もっとかっこよくたたけるようになりたい」など、気持ちを文字にすることで自分の上達度をきちんと意識してくれました。「じょうずにバチをまわせるようになりたい」、翌週「まわせなかった」と書いていた子どもがある日上手に回せるようになっている、そんな姿を目の当たりにするのはなかなか感慨深いものです。

南町一丁目祭りが無事盛大に終了できたことは一人一人の尽力の賜物です。そして、多大なるご寄付をいただいた町内の皆様に改めて御礼申し上げます。

流れる時代の中、「いつまでも本質の変わらないもの」の存在によって人々は安心感を得るものです。「お祭りのある風景」--その変わらぬ本質・心意気をいつまでも大切にする町であってほしいと願っております。そして、子どもたちが、山車の提灯同様に、心にぽっかりぽかりと明かりを灯しつつ、一歩ずつ安心して成長してゆけますよう、今後もご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

(育成会会長 南波 淳子)



大好きなお祭り！

私は南町一丁目のお祭りが大好きです。なぜなら南町一丁目のすてきなおはやしを披露することができるからです。

何よりもがんばったのは、笛です。笛は笛でも横笛です。横笛は縦笛と違い、ただ吹けば音が鳴る物ではなかったので難しかったです。

私達六年生はメインとして大通りで太鼓をたたいたりもしました。また、鐘などもたたくことができました。

南町一丁目は、山車もかっこいいです。私がかっこいいと思うところは山車の形です。言葉では言い表せないほどかっこいいです。こんなかっこいい山車とお別れなんてさみしい気がしました。

小学生最後のお祭りは、六年間参加したお祭りの中で最高の思い出になりました。

来年はもうこの山車には上れない、そう思うと、少し心細い気もします。でも、この最後のお祭りは、とても良い思い出になりました。最後にこんなに良いお祭りができて良かったです。

(6年 金澤史帆)

待ちに待った前橋まつりがありました。九月から練習が始まって一回も休まず参加しました。その結果全ておぼえてまちがえることなく太鼓をたたけて良かったです。

立川町通りに来るといろんなイベントが行われていてとてもにぎやかでした。前橋まつりはとっても楽しかったです。

(5年 松本賢志郎)

10月13日（土）<日記より>

今日とあしたは前橋祭りだ。今日は午前は町内パレードで、午後は街に出てのパレードだった。たいこは、もうかんぺきに覚えたので、自信を持ってたたけた。今年は、大だいこもたたいた。大だいこも今まで練習してきたので、うまくたたけた。たたいている時や、山車に乗っているときはうれしかった。おべんとうや食けんも配ってもらった。やったーと思った。夜までがんばった。

10月14日（日）

きのうとは少しちがって、午後は、街で買い物ができるくらいの時間があった。ずっと食べたかったリンゴ飴を買った。街でのパレードから帰ってくると中で町内を回った。その時は早く夕ご飯が食べたかった。二日間とも友達に会えたので楽しかった。来年は、笛もふくかもしれないのがんばりたい。来年の目標は、もっと大だいこやたいこを力強くたたくことだ。

（4年 田口弘毅）

まえばしまつりは、楽しかったです。たいこは、二回たたきました。だしは、いっぱいひっぱりました。力いっぱいひっぱりました。たいこはたたいてすごくおもしろかったです。

三年生になったら、たいこがいっぱいたたけるので、うれしいです。来年もなんかしたいです。せかいでまえばしまつりがとっても楽しかったです。 （2年 松本光太郎）

南町一丁目祭りに参加して

トントン・・・ピーピー、ピーヒャララ、と、「チビまるこちゃん」ではない。

リズミカルな、そして元気なオハヤシの音色が聴こえている。

この秋、私が住んでいる南町一丁目の祭りに参加した。

実は、昨年この前橋に引っ越して、二度目の参加ではあるが、昨年は、焼ソバ作りに専念したテント村（？）での参加であったが、今年は、山車を曳く係りを仰せつかったのである。当町内会の山車は、なかなか大きくて頑丈で立派である。頑丈で立派と言うことは、それだけ重量があるということで、これを曳く主役のお子様たちは大変である。

さて、そろいの半被に身を固めた皆に曳かれ、当町内の山車は、元気なオハヤシの音色を乗せて前橋市内のメイン会場に向けて出発した。当町内から市の中心である会場までの距離は相当あって、まして町内を一巡してからと、右に左に山車を曲げるたびに、これを曳くお子様たち、付き添う大人たち、はたまた声ばかりの船頭たち（？）と、掛け声よろしく‘ドドドッ’と一緒に大回りするのである。なかなか楽しい。最初はフラフラしていた曳き手たちも、だんだんと慣れ、国道17号線の道路の真ん中を、行き交う自動車を停止させて、山車の上からのオハヤシに元気をもらいながらの堂々の行進である。

いや～本当に愉快、爽快である。祭りの御準備で大変だった役員の方たちには頭が下がる思いだが、こんな良いとこ取りの、楽しい祭りならやめられない。やっぱ祭りは！ 参加することに意義がある・・・かな。

（一組組長 津久井和夫）

恒例の前橋祭り、南町一丁目祭りが今年も盛大に行われ、私たち家族も充実した2日間をすごさせていただきました。育成会に参加して4年目になり、親の方も微力ながらお手伝いすることで、南町一丁目住民としての自覚も出てきたと思っています。祭り当日、子供たちが誇らしげに山車を引き、堂々と太鼓をたたく姿は頗もしく、ほれぼれします。息子は今年、大太鼓をたたく機会もいただき、嬉しそうでした。年中組の次男は兄の姿がかっこよく見えるらしく、自分もやってみたいと言っています。

当日の晴れ舞台を迎えたのは、それ以前の練習があつてこそです。そしてそれは、計画準備、子供への技術指導、交通安全対策など、自治会のみなさんの熱意によって支えられており、親として感謝の気持ちでいっぱいです。

祭りに限らず、日頃から地域のみなさんが子供たちを暖かく見守ってくださり、南町一丁目の子供たちは幸せだと思います。将来、子供たちが親になり、祭りなどを運営する立場になった時、今度は自分たちがしてもらったように地域の子供たちを育てていくはずです。時代が移り変わっても、地域ぐるみの子育ては受け継がれていくもの信じています。

なんだか大げさになってしまいました。

さいごに、祭りの準備から後片付けまで本当にお世話になりました。（育成会 田口有理）

四半世紀を超えて

今年の「南町一丁目祭り」のポスター、ご覧になりましたか。あのポスターの写真は、赤城国体の頃のものです。その頃から、南町一丁目では毎年、山車を曳いて前橋まつりに参加しています。もう、四半世紀にもなるのですね。

お祭りでは、非日常的な空間に人々が集います。神輿を担いだり、山車を曳いたり、御馳走を食べたり、おしゃべりをしたり、踊ったり歌ったり演奏したりします。南町一丁目祭りでは、今年も模擬店（焼きそば、焼きまんじゅう、フランクフルト、ポップコーン、ラムネ）を出したり、お楽しみ抽選会（空くじなし、特等コシヒカリ5kg）をしたりして、地域の皆さんを迎えるました。山車を曳いたり警備してくれる人には、お弁当や飲み物も振る舞われました。山車は前橋市街地に繰り出すだけではなく、町内もパレードします。午前中（11時頃）は土曜、日曜とも、土曜日は夜（19時頃）も巡回します。市街に繰り出すときも、行き帰り（13時頃と18時頃）に町内を巡ります。皆さん、山車をご覧になられましたか。山車を曳いたり、お囃子を演奏する子ども達をご覧になられましたでしょうか。

非日常的な空間の準備・演出は、有志が夏の初め頃から開始します。特に難しいこともないのですが、毎年、同じようなことで「お祭り騒ぎ」をしてしまいます。それはそれで、とても楽しんでいます。

まだ、四半世紀ですが、あの写真の子ども達が親の世代に成長して、（どこかで）その子ども達が太鼓をたたいているのでしょうか。世代を超えてお祭りが続していくことを切に願い、皆さんのご援助ご協力に感謝いたします。（祭り実行委員長／成年会会长 谷中 勝）

<南一文化祭漫筆>



いろどり放つ 百の花

『百花斎放』の書が展示されていました。広辞苑で意味を調べると、「(種々の花が一斉に咲きそろう意) 科学・文化・芸術活動が自由・活発に行われること」とあります。まさに、今回の南一文化祭は「町内の百花斎放」。百二十点(出品者八十名)を越す多種多彩な作品群は、町内の文化の花が一斉に咲き誇る趣がありました。

たった二日間限りの作品展でしたが、作品に込められた、出品者の計り知れない熱意と労力に触れる思いで、一つ一つ丁寧に拝見させていただきました。また、無理なお願いをして仕上げていただいたサロンの作品は、さすがに年輪の重みを感じさせる、味わい深いものばかりで、感嘆させられました。皆様のご協力のおかげで、手狭な会場ながら、内容の充実した催しになったことに安堵しています。

また、お茶のみコーナーでは、普段集会所にお見えにならない方も交えての、にぎやかで楽しい交流が興味を添えてくれました。お手伝いをしていただいた民生委員や、保健推進委員、自治会役員の方のお骨折りに感謝申し上げます。

折しも、市の緑化事業の一環として、長寿会の皆さんのが中心となって、会場入口に色とりどりのかわいらしい花を植えてくださいました。加えてお礼申し上げます。

初めての催しでしたが、出品の問い合わせや、申し込み、会場の場所の問い合わせなど、直接の電話も何件かいただき、手応えを感じる文化祭でした。今回の反省を踏まえて、次の文化祭の時期や次第など、今後実行委員会で検討して行きたいと考えております。

(生涯学習奨励委員 福島 勝男)

<秋季研修旅行>

日本ロマンチック街道を訪ねて 懐古録

去る9月11日、長寿会は、“日本ロマンチック街道を訪ねて”的テーマで、初秋の研修旅行を行ってまいりました。天気予報によりますと当日前後3、4日は雨模様とのことでしたので心配しておりました。しかし、当日は朝からの晴天に恵まれました。参加者全員、日頃の心掛けの賜物と、最高にうれしくなりました。バスは予定時刻に、目的地に向か、笑顔を乗せて発車致しました。



2007.07.25

まず17号を北上し、子持道の駅「川場村田園プラザ」で小休止して、薄根川渓谷道沿を上り、花咲トンネルを抜け、片品村に入り、小休止。はるか東を眺めれば皇海山が招き、足元にはコスモス、すすきが揺れ、ふと気がつけばあたりはおいしい空気でいっぱい、時折K氏のカメラシャッターと小鳥のさえずりが聞こえます。やがて、予定のコースをたどり白根魚苑に到着し昼食をとり、金精神社、白根庭苑を巡り、帰路、椎坂峠頂上のオルゴール館に立寄り、お土産など買求められたようです。当初の企画では丸沼あたりまで足をのばす予定でしたが、急カーブのコースと体力等を考えて、時間的余裕があった方が可とし、今回の催しとなりました。日本ロマンチック街道は別名トウモロコシ街道とも呼ばれています。お味はいかがでしたか。また、金精神社では健康祈願とほか何をお願いしましたか。参加者25名とどこおりなく、午後3時55分、出発地一中前に帰ることが出来ました。次回、春季旅行は栃木県方面を考えております。また、多数様のご参加をお待ち申し上げます。（長寿会A　上）

編集後記

お寄せいただいた原稿を読み返すたびに、この半年間に行われた、盛りだくさんの町内行事の楽しい光景が目に浮かぶようです。掲載させていただきました写真を含めまして、あらためて、ご寄稿に感謝申し上げます。

(編集委員／生涯学習奨励委員 福島 勝男)

特集の「南町一丁目祭り」はいかがでしたか。町内で一番大きな行事です。

<http://www.ops.dti.ne.jp/~yanaka/3731/>

(編集委員 谷中 勝)